

# 神戸市西区および稲美町一帯 におけるヒクイナの生息状況

渡辺美郎・平野敏明(バードリサーチ)

# 調査の目的

- ヒクイナ *Porzana fusca* の 1 亜種 ヒクイナ *P. f. erythrothorax* (以下ヒクイナと呼ぶ) は、近年、東日本では生息環境が著しく悪化し、激減していることが報告されており、2006年12月に改訂された環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定された。しかし、日本における本種の詳しい生息状況は、ほとんど調査されていない。そこで、現在もヒクイナの生息が確認されている兵庫県神戸市付近で、ヒクイナの生息状況とその環境を明らかにし、生息環境の保全を考える基礎資料にすることを目的に調査を行った。

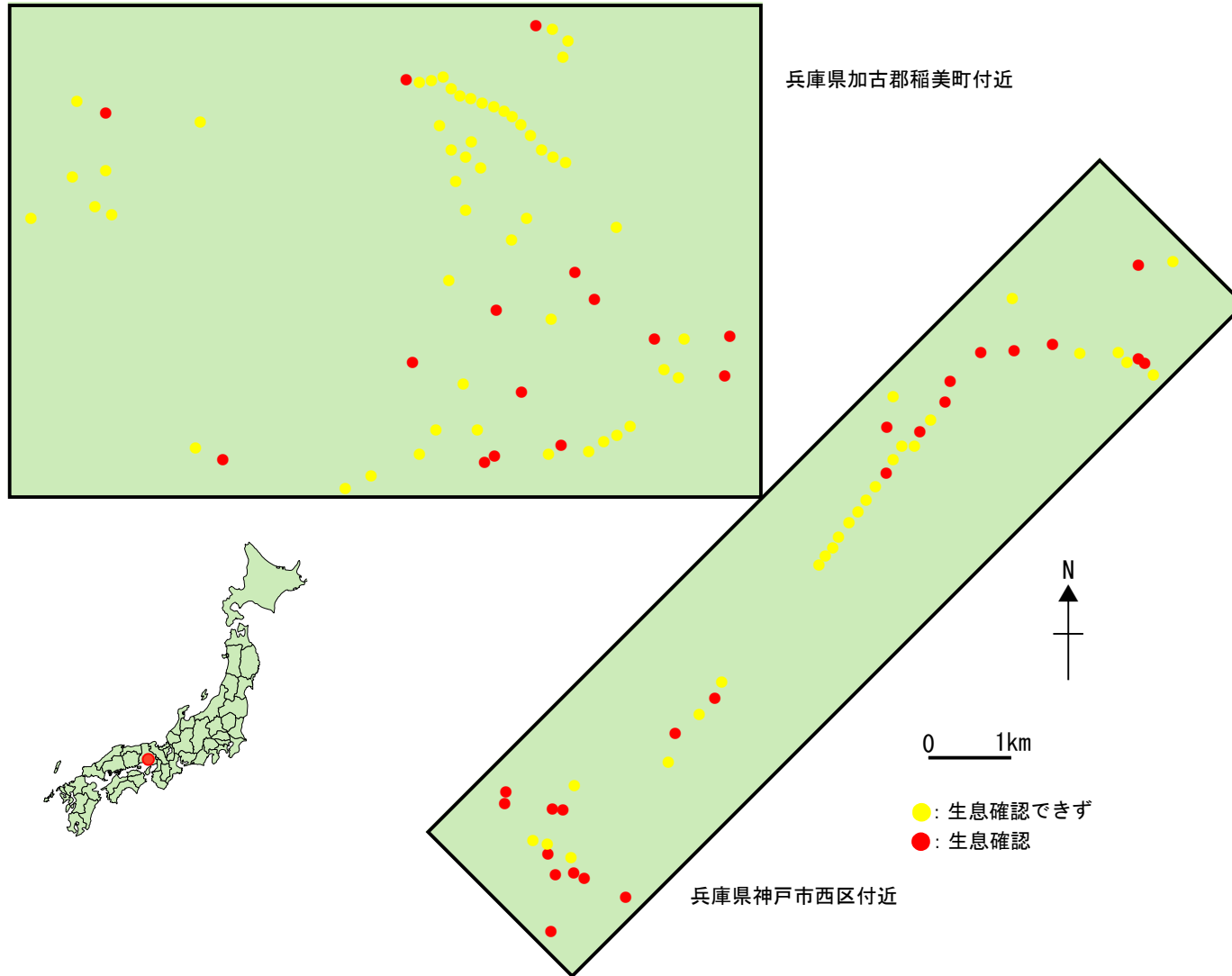
# 調査地および調査方法

- 調査は、兵庫県神戸市西区、加古郡稲美町の河川や溜池、農地で実施した。
- 調査方法は、鳴声をテープレコーダーで再生し、その声に反応したヒクイナの個体数をかぞえる方法(プレイバック法)をもちいた。
- 調査は2008年5月下旬から6月にヒクイナが生息しそうな河川、池、農地の草むらなどで、早朝や夕方に実施したが、一部日中も実施した。
- 解析の方法:
- 調査地の環境を河川、池、農地の大きく3つに分けて、生息個体数に違いがあるかを解析した。この場合、各環境で実施したプレイバック地点数に対する割合をもとに $\chi^2$ 検定で危険率5%で解析した。
- 池と農地の調査地では、ヨシなどの湿地性草原の大まかな面積と生息の有無の関係を調べた。便宜的に湿地性植物で覆われた面積を500m<sup>2</sup>とそれ以下にわけ、生息の有無をFisherの正確確率検定法をもちいて危険率5%で解析した。
- 河川の調査地では、ヒクイナの生息の有無と河川の規模との関係を解析した。調査地の河川を明石川の河川敷の幅約50m以上と約10m以下の小河川とにわけて、生息の有無をFisherの正確確率検定法をもちいて危険率5%で解析した。

# 調査結果

- ・ 合計117地点でプレイバックを実施したところ、合計38地点、63羽のヒクイナの生息を確認した。
- 1調査地点で記録されたヒクイナの個体数は、1羽が52%と多かったが、2羽が34%、3と4羽が7.9%と5.3%であった。つがいと思われる2羽の記録は、少なくとも12地点であった。
- ・ ヒクイナの生息が確認された環境は、溜池、大小の河川、農地に残された小規模な草原であった。
- ・ 1調査地点あたりの個体数は、溜池が0.62羽、河川が0.59羽、農地が0.77羽であったが、それらの間には有意な違いは得られなかった。
- ・ 溜池の生息の有無をヨシなどの湿地性植物の面積を基に比較した。ヒクイナはヨシ原が広い溜池の方が狭い溜池より生息地が多かった。
- ・ 便宜的に500m<sup>2</sup>とそれ以下に分けて比較すると、500m<sup>2</sup>以上のヨシ原がある溜池のほうが有意に生息地が多かった。
- ・ 河川の調査地の生息の有無を、河川の規模を基に比較した。河川敷の幅が50m以上の明石川と約10m以下の小河川とで、生息地数を比較したところ、河川の規模と生息の有無には有意な関係は得られなかった。また、個体数では、明石川のほうが個体数が多かったが、有意な違いは得られなかった( $\chi^2=1.09$ 、 $p>0.05$ )。
- 農地の調査地で池と同様に草地の面積を500m<sup>2</sup>とそれ以下に分けて比較したが、有意な違いは得られなかった( $p=1.000$ )。

# 調査地点と生息確認地点



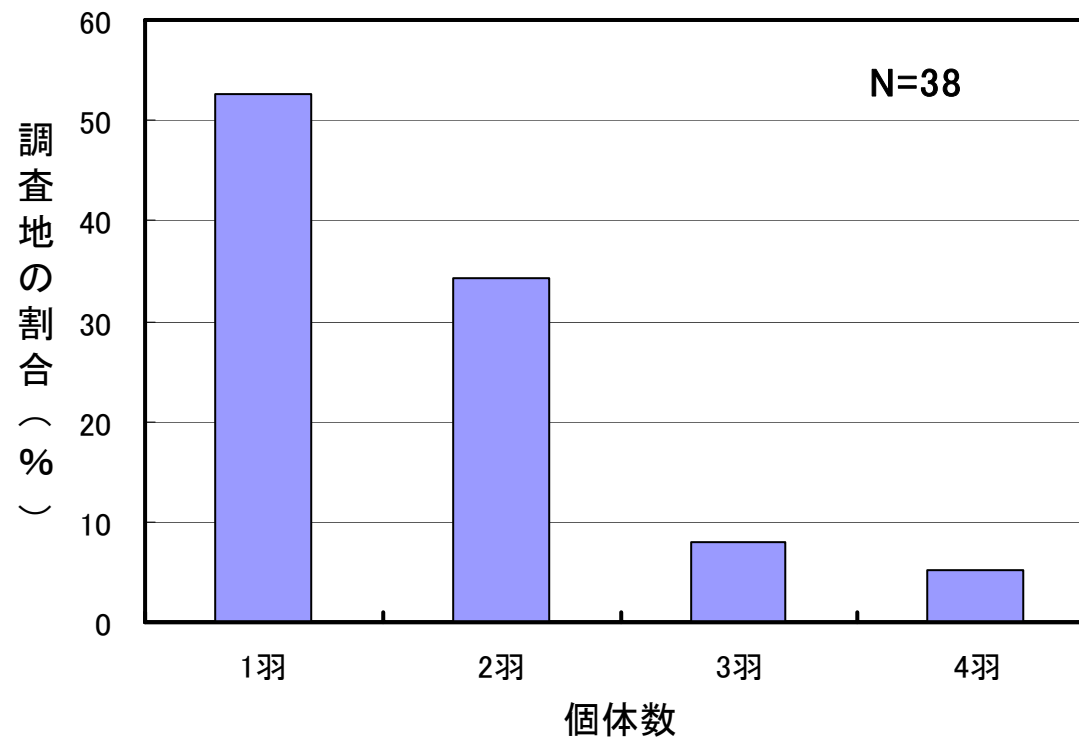


図2. 1調査地点で同時に記録されたヒクイナの個体数

調査は2008年5月下旬から6月中旬にかけてプレイバックによって行なった。複数羽記録された場所での個体間の距離は、約0.5mから100mであった。

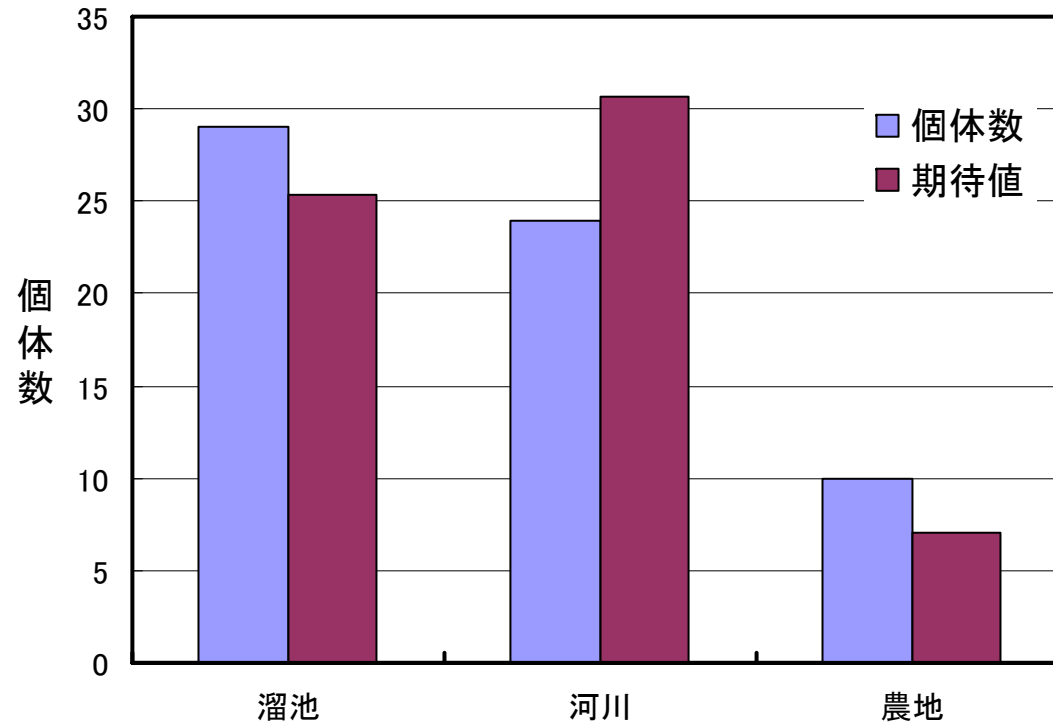


図3. 記録された63羽のヒクイナの環境別個体数

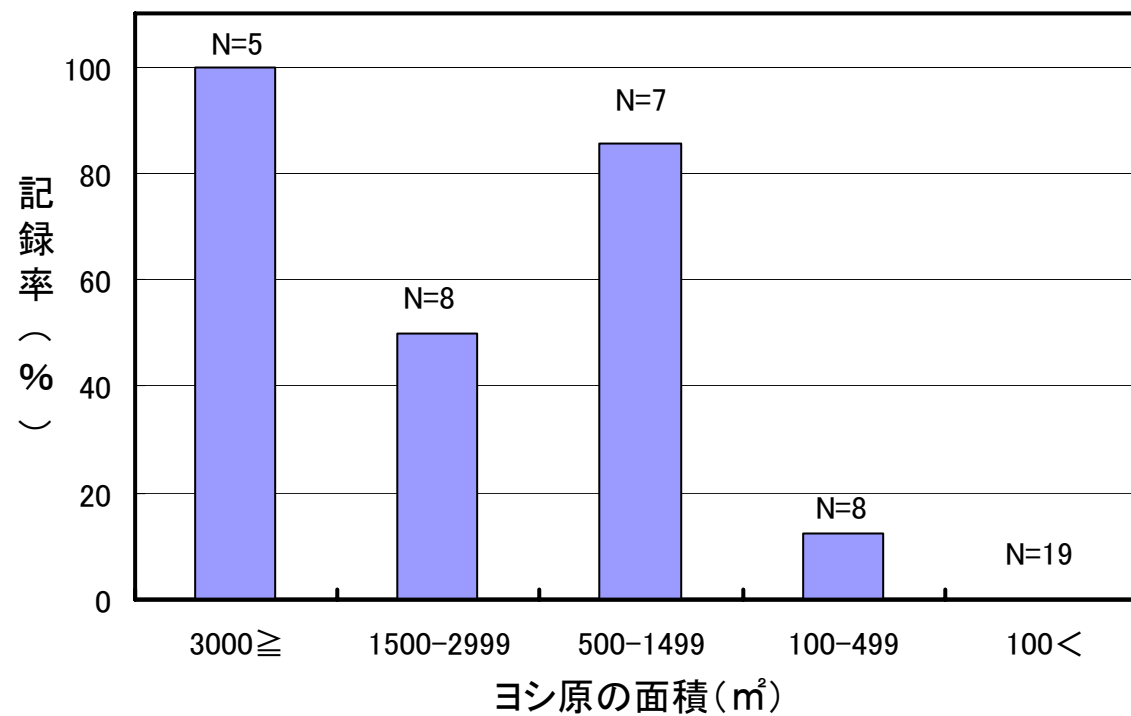


図4. 溜池の調査地における湿地性植物の面積とヒクイナの生息の有無

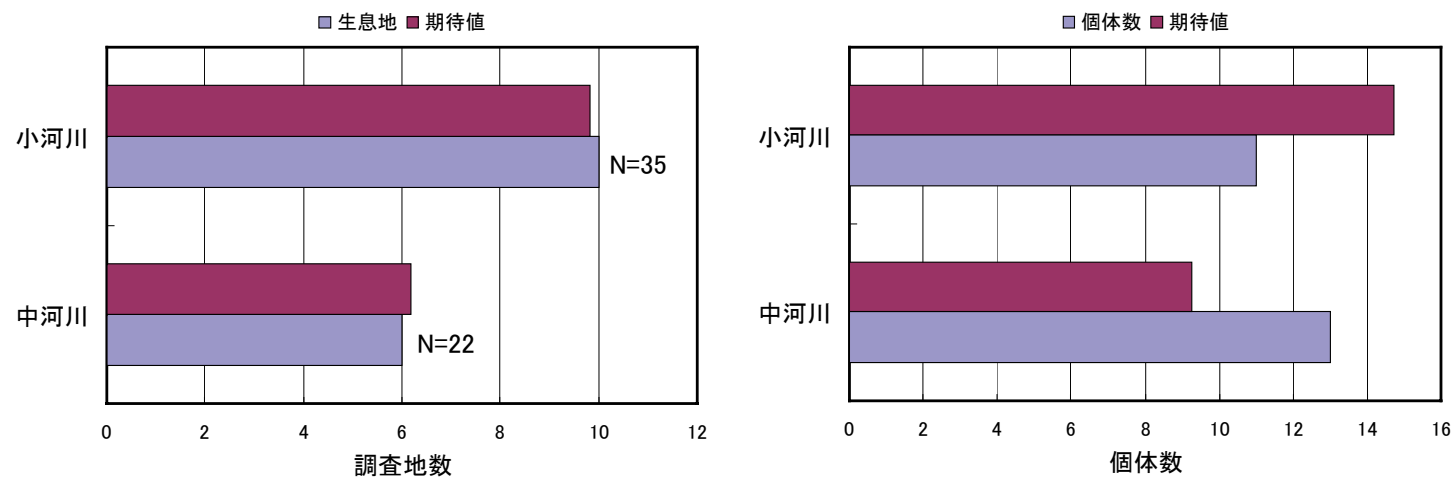


図5. 河川の規模とヒクイナの生息状況

生息地および個体数とも、中河水川と小河水川との間に有意な違いは得られなかった。

# ヒクイナの生息環境



中河川(明石川)の生息地



小河川の生息地



住宅密集地付近の溜池



溜池の生息環境



岸がコンクリートで覆われた溜池  
ヒクイナの生息は確認できなかった



流路の岸が護岸された河川

# まとめ

- 調査地にヒクイナが多く生息している理由：
- この地域には著しく多くの溜池があり，それらを結ぶように小さな河川や水路が多数流れている。そのため，ヒクイナに良好な湿地性の環境が多く存在することが考えられる。溜池の数：6km×9kmで約100個。
- 環境選択に関わる問題：
- 溜池でも岸がコンクリートで覆われた水深の深い池は，ヨシ原の面積が狭いこともあり，ほとんど生息していない。明石川では，河川改修工事で，川岸にコンクリートや石積みの護岸がある場所ではヒクイナがあまり生息しない傾向があった。
- ヒクイナの生息環境の保全：
- 今後，池の改修工事や河川改修などが進むとヒクイナの生息数が減少する可能性がある。